

の影響は今のところなく、「車についていた」との情報もあり、どこかで発生したものが、車で運ばれたことも考えられる、とのことだった。

いずれにしても人為的な持ち込みが考えられるが、3～4月にクズの蔓の部分に本種が作る虫こぶ・ゴールを見つけることが、本種発見の近道になる。宍粟市はじめ各地のクズなどに注意していただきたい。

○参考文献

- 秋田勝己・乙部宏・高桑正敏, 2010. 三重県に定着した外来種フェモラータオオモボトハムシの駆除を試みて. 月刊むし, 473: 43-44
- 秋田勝己・乙部宏・鈴木知之・中西元男・高桑正敏, 2011. 三重県に定着したフェモラータオオモボトハムシ. 月刊むし, 485: 36-43
- 戎谷秀雄・宮武頼夫, 2011. 三重県におけるフェモラータオオモボトハムシの2006年の記録. 月刊むし, 488: 41

(Susumu MIKI 兵庫県明石市)

姫路市京見山でケカゲロウを採集

脇村 涼太郎

筆者は2016年6月25日に姫路市広畑区京見山において、ケカゲロウ *Isoscelipteron okamotoi* を1個体採集しているので報告する(写真).



ケカゲロウはケカゲロウ科 Berothidae の中で唯一の日本産種で比較的稀な種とされる。幼虫はシロアリを食べ成長し(小松, 2014)成虫は光に集まることが知られている。しかし、記録は少なく、採集例も多くない。

今回採集したのは姫路市広畑区京見山の南側標高100 m付近である。この山はシカによる食害と乾燥が

激しく虫にとってあまりいい環境ではない。天候は雨時々曇りで何かいないかとビーティングしながら山を登っていると本種が1頭落ちた。その後もこの山に採集に行っているが未だ追加個体は得られていない。

○参考文献

- 小松貴, 2014. 裏山の奇人: 野にたゆたう博物学. 東海大学出版会.
- 丸山宗利・小松貴・工藤誠也・島田拓・木野村恭一, 2013. アリの巣の生きもの図鑑. 東海大学出版会.
- (Ryōtarō WAKIMURA 姫路市立広畑中学校2年)

兵庫県佐用郡でイトヒキミジンアリタケを採集

脇村 涼太郎

筆者は2016年4月3日に佐用郡佐用町船越においてイトヒキミジンアリタケ *Cordyceps* sp. を採集したので報告する(写真).



イトヒキミジンアリタケは冬虫夏草の一種で基本的にオオアリの仲間を宿主とする。個体数は場所によっては多い。ただ、色彩が地味なため発見は困難を極める。似た種に台湾アリタケがいてイトヒキミジンアリタケと酷似している。台湾アリタケは湿った場所にいるのに対しイトヒキミジンアリタケは比較的乾燥した場所に生息している。

今回採集したのは佐用町船越の瑠璃寺へと続く林道の脇に生えている杉の樹皮下である。この日は佐用昆虫館で毎年恒例の虫開きが行われていた。その後、樹皮めくりで何か採集できないものかと杉の皮を剥ぎまわっていたところ本個体を発見した。その後も樹皮めくりを続けたが、追加個体は得られなかった。

家に帰って調べてみたところ、アリタケの一種であることは分かったがそれ以上のことは分からなかった。しかし、神戸大学で毎年行われているムシのお話五つ星